

◆ 平成 22 年度（後期）県立広島大学 学部・学科・研究科（専攻）等による FD 活動（教育改善）報告一覧

実施主体	コーディネーター	日時	実施場所	実施内容
人間文化学部 健康科学科	江島洋介, 増山悦子, 中瀬古哲	授業期間中随時	会議室, 教室他	<p>テーマ：学生の視点に立った日々の授業改善とカリキュラム改革</p> <p>健康科学科の FD 活動は、日々の学生の実態・声に耳を傾け、それを基盤として教育実践を見直すとともにそれらカリキュラムに反映すべく努力している点に特徴がある。</p> <p>簡単な状況報告：</p> <p>1. “ピュア・レビュー”を兼ねた研修の場としての「フレッシュマン・セミナー」</p> <p>健康科学科の「フレッシュマン・セミナー」は、4名の主担当（成績評価者、年度毎にローテーション）を中心に行なわれるが、原則全員が持ち回りで授業（約60分）を担当。4名の主担当者は学生と共に授業をうけ、その後その授業の内容をうけてそれぞれ4つのグループに分かれて議論。そこでの学生と主担当教員の議論は、“ピュア・レビュー”の側面を持っている。健康科学科の教員は、ほぼ全ての教員が、他の教員の教授活動の特徴（長所と短所）を把握しているのである。授業担当者の示した教育内容に対して教員から質問がだされ議論が展開されることもしばしば見受けられる。</p> <p>2. 授業コメントの交流とさらにそれに対するコメントの交流・共有</p> <p>上述の教員同志の教授活動の公開・交流を基盤として、総合教育センターが実施している授業評価の各自のコメントに対して、さらにコメントをし交流・共有している。この取り組みによって、个性的で多様な同僚の授業に対する願いや姿勢を知ることができ、教育改善に対する意識が喚起され高まると考えられる。</p> <p>3. 学生の生活課題・発達課題（特別な教育ニーズを含む）の把握と教育改善</p> <p>定例の学科会議において、必ず、気になる学生の動向を交流し日々の授業実践や生活指導に役立てるように努めている。学生相談運営委員からの情報（主に、特別な教育ニーズをもつ学生）も、全てのスタッフで共有する。特に、最近では、実験・実習などの協力・協同が苦手な学生が存在するため、グルーピング等は情報を共有しながら進められている。また、授業の学年配当等については、CAP制やGPA制も視野に入れつつ、学生からの聞き取りや・アンケートを実施し、変更・改革を行なっている。時間割作成においても、教員ではなく、学生の最善の利益を優先し行なわれている。</p> <p>4. その他 ー学生の学びを支える取り組み</p> <p>生体科学分野では、科学基礎科目についてのアンケートを実施し、学生の要望を受けて、知りたい化学、生物の用語書を作成、配布した。</p>
経営情報学部	学科長：山本努	学生の勉学状況などに応じて随時	研究室, 教室, 会議室, 学外等	<p>テーマ：広島県立大学経営学部過年度学生への対策</p> <p>参加者数：経営情報学部教員・教学課担当者等が参加。</p> <p>簡単な状況報告：(キーワード：過年度学生, 卒業, 単位取得)</p> <p>広島県立大学過年度学生の対策は、経営情報学部の重要課題のひとつ。指導教員、教学課の協力指導体制によって、広島県立大学過年度学生の、少しでも早い（できれば、今年度の）卒業を目指して、種々の指導、活動をおこなった。学生の状況により、学部教員、および、卒論指導の教員、副指導の教員、教務担当の教員、および、教学課の担当者での、状況確認、対策協議の会合をもった。</p> <p>*その他下記の会合を持ち、成果を高めた。</p> <p>オリエンテーション・・・参加者：旧経営学科教員、内藤（教学課）、過年度学生 内 容：履修ガイダンス、卒業までの履修年度計画作成。</p> <p>過年度生指導対策会議（後期適宜、数回実施）・・・参加者：旧経営学科教員 内 容：学生の状況を確認、出席状況確認調査</p>

<p>生命環境学部 環境科学科</p>	<p>学科長：西村和之</p>	<p>平成 22 年 2 月 2 日</p>	<p>2204 講義室</p>	<p>テーマ：専門家キャリアデザイン実施準備に関わる事例紹介セミナー 参加者数：専門科目教員 6 名，事務職員 3 名 簡単な状況報告： 佐賀大学理工学機能物質化学科 原田浩幸 准教授を招聘し、「佐賀大学における環境関連の就業力支援の取り組みと JABEE 認証について」と題したセミナーを実施し、佐賀大学における環境関連プログラムの紹介と化学分野の審査委員からみた JABEE 認証の実態について講演をして頂き、本学科の教育プログラムや JABEE 認証を受ける事を想定した場合の改善点等について意見交換等を行った。</p>
<p>保健福祉学部 看護学科教育課程検討会</p>	<p>学科 FD 委員： 石田宜子</p>	<p>1-①平成 22 年 12 月 20 日 1-②平成 23 年 3 月 15 日 2 平成 23 年 3 月 24 日 3 毎月 1 回</p>	<p>4102 会議室 札幌市立大学 3423 演習室</p>	<p>1. 講演会&ワークショップ ①テーマ：看護倫理教育のあり方 参加者数：25 名 簡単な状況報告： 星和美 大阪府立大学看護学部教授・看護倫理学会理事を講師に招き、看護倫理の概要と、看護基礎教育での教育について講演いただいた。その後学科教員間で 3 グループ(各 6 名)に別れ、本学における看護倫理教育についてディスカッションを行い、その成果を発表した。 ②テーマ：模擬患者参加型教育の概要と教育実践 参加者数：30 名 簡単な状況報告： 阿部恵子 名古屋大学大学院医学系研究科助教(前)岐阜大学医学部医学教育開発センター)を講師に招き、模擬患者参加型教育の概要等について講演いただいた。その後、FD スタッフを模擬患者役、参加者を学生役とし、模擬セッションを行い、模擬患者を活用した教育のあり方についてディスカッションした。 2. 現代 GP 報告会視察 参加者数：4 名 簡単な状況報告： 札幌市立大学において平成 20～22 年度実施された文部科学省[質の高い大学教育推進プログラム]の報告会へ参加する。来年度、教員に向けて伝達講習会を行う予定。 3. 教育課程検討会 テーマ：①学科 FD 活動の企画、②看護学教育内容と卒業時到達度の明確化に向けて、③平成 24 年度カリキュラム改正に向けて。 参加者数：約 9 名 簡単な状況報告：学科領域より最低 1 名の代表者が出席し、標記テーマについて検討を行った。</p>
<p>保健福祉学部 理学療法学科</p>	<p>学科長：大塚彰</p>	<p>①毎週水曜日・1 時限目の学科会議時 ②平成 22 年 10 月 20 日 平成 22 年 12 月 15 日</p>	<p>2416 会議室</p>	<p>テーマ：①学生の学内および学外（臨床実習）での学習支援 参加者数：16 名，「ワークショップ」では、学科教員 10 名＋臨床実習指導者 21 名 簡単な状況報告： 欠席が 3 回以上になった学生へのチューター連絡について適時討議。また、1 月 28 日の理学療法学科「臨床実習指導者会議」において、学科教員と実習指導者とで、学生のコミュニケーションの能力の向上についてのワークショップを開催。 テーマ：②学科教員の教育方法論に関する知識・技術の向上 参加者数：16 名，瀧川教授の担当回には、看護学科より 2 名の参加。 ・ 10 月 20 日（水）9 時～9 時 30 分：卒業研究指導に役立つエクセルの応用例（担当：滝川 厚） ・ 12 月 15 日（水）9 時～9 時 30 分：臨床実習におけるインシデント分析（担当：田中 聡）</p>

<p>保健福祉学部 作業療法学科</p>	<p>学科 FD 委員： 田端幸枝</p>	<p>学科 FD の講習会 ①平成 22 年 10 月 13 日 ②平成 23 年 3 月 23 日</p>	<p>2416 会議室</p>	<p>テーマ：FD 活動の充実 ①参加者数：14 名 ②参加者数：16 名（いずれの講演会も、他学科からの参加者 / 参加希望者があった。） 簡単な状況報告： 学科 FD 講演会はいずれも興味深い内容で、他学科からの参加もみられる。魅力的なテーマと短時間でコンパクトにまとめられた内容は、大変有用で評判が良い。学科員が講師として自主的な FD 講演会開催を希望することも多くなり、学科 FD 活動に対する認識が深まり、活動が充実してきたことが推察された。 *その他 ・ 情報の共有化や学生指導の検討は月 2 回の学科会議において実施した。1-3 年次学生は出席や授業参加態度、成績不良または臨床実習の不応学生等の指導が主であった。 ・ 国家試験不合格者の指導を試みた。7 月から原則月 1 回、卒業生 6 名が大学に集合し、模擬試験に取り組んだ。国家試験の合格状況が明らかになった後に、今後の継続等について検討する。</p>
<p>保健福祉学部 コミュニケーション障害学科</p>	<p>学科 FD 委員： 本多留美</p>	<p>①学科会議（第 4 月曜・昼休み）及び学生支援会議（不定期・昼休みを中心に） ②平成 23 年 3 月 8 日 ③学科会議等 ④平成 23 年 1 月 28 日 ⑤平成 22 年 10 月 27 日 平成 23 年 1 月 13 日 平成 23 年 2 月 28 日 平成 23 年 3 月 29 日</p>	<p>1309, 1310 講習室 4102 会議室 1309, 1310 講習室他 4 号館講義室及び教室 1309, 1310 講習室, 4102 地域連携センター室</p>	<p>テーマ：①学生支援の充実 参加者数：13～17 名 簡単な状況報告： 引き続き、学生支援にかかわる情報の共有をはかった。病気のある学生の実習対応については詰めた話しあいを行った。また、国家試験への対策などもテーマとなった。 テーマ：②ST 養成校連絡協議会研修会（言語聴覚士養成校教員連絡協議会中四国ブロック研修会） 参加者数：他校教員を含め約 20 名、本学科からは 6 名 簡単な状況報告： 学生とのコミュニケーションをテーマに三好晶子先生を招聘し、「関係性を深めるためのコミュニケーション」の講義と自己診断を行った。教員自らのコミュニケーションを振り返る有意義な機会となった。さらに、全国統一模試など、言語聴覚士養成校間での意見交換。 テーマ：③臨床教育の在り方・カリキュラムの検討 参加者数：13～17 名 簡単な状況報告： 将来的な臨床実習カリキュラムの変更について検討した。おおまかな時間数の割り振りや内容について、ワーキンググループで検討・提案し、ほぼ学科内での合意に達することができた。 テーマ：④模擬患者による学生のためのコミュニケーション演習 参加者数：6 名 簡単な状況報告： 模擬患者によるコミュニケーション演習は昨年度から引き続きの実施で 2 年目である。今年度の学生からも有意義な学びとなったという反応を得たが、学生の傾向が昨年度とはかなり異なり、教員にとっては学生の異なる側面の新たな発見となった。 テーマ：⑤専門・関連分野に関する知識の充実 実施内容：臨床実習のあり方についての検討 参加者数：約 15 名 簡単な状況報告： コミュニケーション障害学科セミナーとして、「5 歳児発達スクリーニングについて」本学科教員堀江真由美氏の発表（10/27）、「高次脳機能障害の臨床と研究」本学科教員丸石正治氏の発表（1/13）、が行われた。また、3/29 には、(株) JMS によるセミナー「舌圧測定器について」を予定している。国際</p>

				交流講演会としては、「読字障害者・児における音韻障害と視覚的注意スパン障害について」UK の Brunel University/ University College London の T. N. Wydell 氏の発表 (2/28) が行われた。専門を異にする教員にとっても学びと意見交換の場となった。
保健福祉学部 人間福祉学科	学科 FD 委員： 三原博光	①2 年生：平成 22 年 11 月 11, 19 日/3 年生：平成 22 年 11 月 8 日 ②平成 23 年 2 月 19 日 ③平成 23 年 3 月 4 日	三原キャンパス 内	<p>テーマ：①実習報告を通して学生及び教員の福祉実践能力の構築 参加者数：2 年生及び 3 年生の実習報告会では、学生教員も含めて 50 名～100 名 簡単な状況報告： 学生たちが自主的に企画、司会、質疑応答を積極的に行った。</p> <p>テーマ：②学生受け入れ実習施設の実習担当者の実習に伴う様々な問題点の協議。 参加者数：実習担当教員 5 名。 簡単な状況報告： 実習担当者から、実習指導教員に対して、実習前後に必要な教育的指導の情報を得た。特に 2 年生 新カリキュラムに伴う実習の問題点について討議した。</p> <p>テーマ：③三原市こころネット祭りへの参加 参加者数：3 年生 4 名が代表を務め、実行委員会メンバーとして、企画段階から継続的に参加。 簡単な状況報告： 学生はボランティア募集のパンフレットを作成して学部学生に配布し、「思いやり戦隊ハートレンジ ャーショー」の企画実施もした。前日の設営に 12 人、当日は 29 人の学生がボランティアとして参加 し、主体的に活動した。</p>